ブラッセル日本人学校における国際理解教育の実践

前ブラッセル日本人学校　教諭
宮城教育大学附属小学校　教諭　佐　藤　　毅

キーワード：在外教育施設、ベルギー、英語、フランス語、国際交流

１．はじめに

ベルギーといえば、チョコレート、ワッフル、ビールなど美食の街としてメディア等で取り上げられる機会がたくさんある。また、地理的に欧州のほぼ中央部に位置する交通の要衝であり、欧州連合（European Union: EU）本部があることから、国際社会的にも重要な役割を果たしている。オランダ・ドイツ・ルクセンブルグ・フランスに囲まれたこの小国では、公用語としてフラマン語、フランス語、ドイツ語が話され、首都のブリュッセルでは英語も使われる国際色豊かな国である。この国際色豊かな国にいるうちに、少しでも外国語を身に着けさせたいという保護者からの要望、そして在外教育施設としての特色として、ブラッセル日本人学校ではフランス語と英語の会話授業を実施している。小学校低学年では現地幼稚園から入学する児童も多いことからフランス語、中学年以上はフランス語と英語の選択制を採っている。授業はフランス語や英語を母国語とする先生が行っており、児童・生徒は日常生活で外国語に触れる機会が日本より多いためか、学習にも意欲的で、フランス語検定や英語検定などにも積極的に取り組んでいる。

学校で行っている会話授業を、「ベルギー」というこの地でしかできない現地教育施設との交流学習で役立てることはできないか考え、派遣３年目に実践した内容を紹介する。

２．活動記録

(1) Ecole Raymond Van Belle（レイモンド・バン・ベル校）との交流

①活動日時　平成26年９月23日（火）来訪

②主な活動内容　Ⅰ　ミニ運動会

Ⅱ　おにぎり作り

鉢巻を巻いて、気合十分！

レイモンド・バン・ベル校とは、４年連続で交流学習を進めることができた。子どもたちは来訪・訪問と年に２回会うことができる現地の友だちを心待ちにしている。それは、普段学習しているフランス語や英語を実践する機会でもある。例年、日本の伝統遊び等を取り入れながら交流を進めるのだが、４年連続ということもあり、子どもたちと相談した結果、校庭でミニ運動会を開くことにした。リレーやボール送り、そしてなんといっても盛り上がったのは綱引きである。綱引きは、現地校の子どもと組んだグループで対戦したり、日本人vsベルギー人で対戦したりと、スローガンでもある「仲良く・協力・言葉をこえて、友だちつくろう」の通り、「頑張れ！」や‘allez ！’と大変盛り上がる活動となった。スポーツで汗を流した後は、おにぎり作りを行った。およそ70合炊いたご飯をペロリと完食し、準備したツナマヨは一瞬でなくなってしまった。「美味しい」‘C’ est bon ！’という声があちらこちらから聞こえ、「美味しいから家族にも持ち帰りたい」というレイモンド・バン・ベル校の子どももいて、大満足の１日となった。

(2) Ecole Communale les Cèdres（レ・セードル校）との交流

①活動日時　平成26年10月20日（月）

②主な活動内容　Ⅰ　バスケットボール

レ・セードル校との交流は、相手校からの熱心な誘いがあり実現することができた。この交流学習は、様々な準備をしていた従来のスタイルとは一線を画し、相手校の授業に混ぜてもらうスタイルだった。現地校との交流では主にフランス語が使われるので、現地スタッフであるベルギー人教諭の通訳が必要なのだが、それでもスポーツを通しての交流は会話だけに頼らず、お互いをよく見ながら活動する中で、普段、英語を学習している子どもでもコミュニケーションをとることができた。交流の時間は1時間という短い時間であったが、それぞれが課題を持ち帰るとともに、大変有意義な活動となった。

(3) Ecole Professionnelle Enseignement Spécialisé Libre（ラ・クラリエール養護学校）との交流

①活動日時　平成26年11月22日（土）

②主な活動内容　Ⅰ　チャリティバザー

Ⅱ　習字のデモンストレーション

土曜日がバザー当日ということで、ラ・クラリエール養護学校へは、保護者ボランティアを募り、活動に参加した。ここでは、全校児童生徒から寄付してもらった日本に関するバザー用品を学校で売るだけでなく、現地の人の名前を聞いて、当て字で書く書道が大盛況だった。次から次へとお客さんが来て、子どもが書いた習字を手渡すと、にこにこしながら受け取り、お礼を言うだけでなく、お金を置いていってくれた人もいた。毎年日本人学校のブースを覗いてくれるおばあちゃんは折り紙でできたボールを手に取って「子どもたちが売りに来てくれるのを楽しみしている」と満足そうにおっしゃっていた。

Merci Beaucuop（ありがとう）

大人は相手がフランス語で通じていないことが分かると、英語に切り替えて話し掛けてくれる。子どもたちは保護者ボランティアであるお母さんたちの補助を受けながら対応することで、現地の方々と交流することができた。

(4) Université Catholique de Louvain（ルーヴァン・カトリック大学）との交流

①活動日時　平成26年11月28日（金）

②主な活動内容　Ⅰ　日本の伝統遊び

Ⅱ　日本の文化紹介（プレゼンテーション）

Ⅲ　学生によるベルギーと日本の比較紹介（プレゼンテーション）

ルーヴァン大学との交流は、ルーヴァン大学日本語学科で教えておられる櫻井先生からお声掛けいただき、実現することができた。子どもたちは普段なかなか接することがない学生相手に緊張しながら、まずは、「すごろく」「けん玉」「折り紙」「鬼ごっこ」「ぼうずめくり」「羽子板」の活動を実施した。会話別でグルーピングすることにより、遊びの説明もそれぞれの会話で考えさせることができた。遊びを取り入れることで、子どもも学生も互いの心の距離を縮めるのに、時間は掛からなかった。

打ち解けた後は、これまで積み重ねてきた外国語会話の成果を発揮する機会を設けた。事前に総合的な学習の時間で追究した「日本のよさ」をまとめたプレゼンテーションを翻訳し、外国語会話の先生に協力してもらいながら準備することができた。ルーヴァン大学の学生には、事前にフランス語の子どもたちにはフランス語で、英語の子どもたちには英語で質問してもらうようにお願いしたので、これまで会話の学習で学んできたことを活用

しながら一生懸命質問に応えようとする子どもたちの姿を見ることができた。

学生にとっては、子どもたちに大学で学んだ日本語を使う機会が確保され、子どもたちにとってもフランス語や英語を使う機会が確保される。お互いに母国語ではない第２言語を使用するためか、身振りや手振りを交えながら、何とか伝えたいという姿を多くの場面で見ることができた。これらは相手が日本語を学ぶ学生であることが最大限に生かされた活動であった。

(5) Ecole Raymond Van Belle（レイモンド・バン・ベル校）との交流

①活動日時　平成26年12月９日（火）訪問

②主な活動内容　Ⅰ　図工（模写）

Ⅱ　フラッシュ・モブ（組み体操）

Ⅲ　カップケーキ作り

迎えてもらう立場となって子どもたちは「もっとコミュニケーションをとろう」と、より高い目標をもって頑張ることができた。グループに分かれて、絵を描いたり、リズム遊びをしたり、現地で流行しているフラッシュ・モブという即興のダンスで一緒に体を動かしたり、カップケーキ作りなどを体験させてもらった。来訪時にミニ運動会の紹介で上映した子どもたちの「組み体操」に感動したレイモンド・バン・ベル校の子どもたちの提案で、ミニピラミッド作りをするなど、最後まで笑顔で活動を終えることができた。

レイモンド・バン・ベル校で学ぶ子どもたちの母国語はフランス語である。そのため、子どもたちの多くは英語を話すことができない。それでも、子どもたちは片言のフランス語を糸口に、コミュニケーションを図ろうとする。会話だけでなく、一緒に活動に取り組み、互いに相手のことを思いやる心も国際交流の一部なのだと感じることができた。

３．おわりに

現地で暮らすということは、日常的に言語を含めた異文化に接することである。しかし、子どもたちは買い物や交通機関を利用するときに、大人と話をすることはあっても同年代の子どもたちと触れ合う機会は少ないように思える。そんな子どもたちにとって現地の子どもたちと話をしたり、ゲームをしたりする活動はどれも楽しく感じられ、とても貴重な経験になっていた。しかも、現地の大学からお声掛けいただき、日本語を学ぶ学生とも、交流の機会を設けられた子どもたちは、本当にすばらしい環境にいると感じた。

このような活動ができるのは、これまでに交流活動を推進してこられた先生方や現地のスタッフ、相手校の先生方、快く補助してくれる保護者など、いろいろな方の協力があったからだと感じている。たくさんの交流活動に参加させていただき、私自身多くのことを学ばせていただいた。このような機会を与えてくれた方々に本当に感謝している。